

復刻版
国定教科書編纂趣意書
全13巻・別巻1
中村紀久二編

体裁・造本

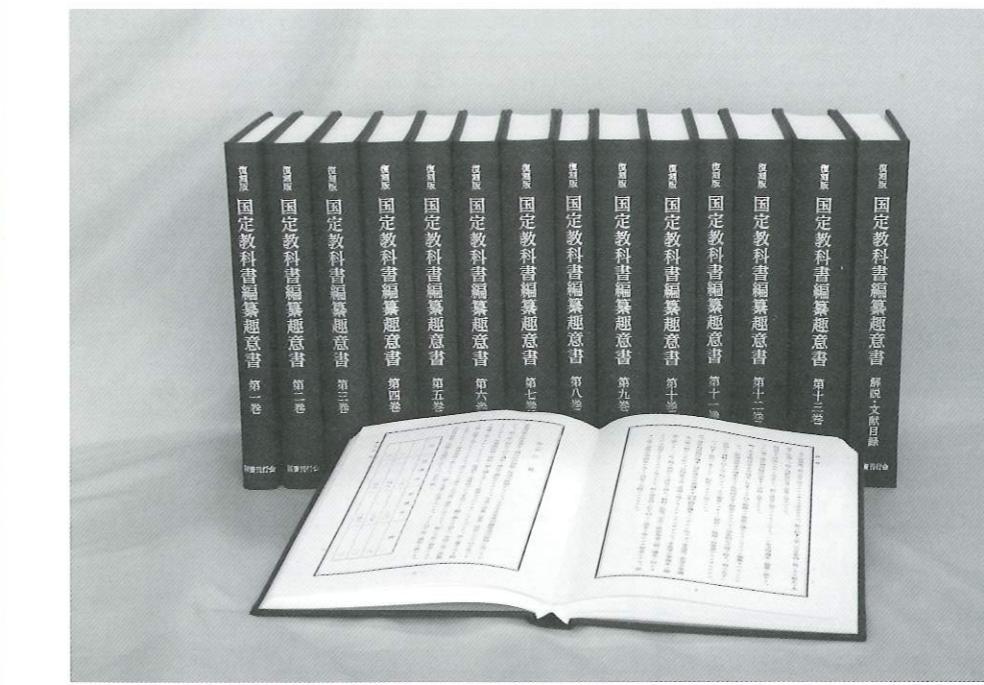
A5判・上製クロス装・セット函入

各巻平均300-400頁
(総4940頁)

ISBN978-4-336-04073-2

予定価: 本体180,000円+税
(分売不可)

●2008年9月末刊行



本書の特徴

- 明治・大正・昭和の40年間にわたり文部省が編纂した尋常・高等小学校、国民学校初等科・高等科の全ての国定教科書編纂趣意書を収集し、関連資料を加えて初めて集大成。
- 編纂趣意書は、国定教科書期の日本の教育政策を具現化した教育内容そのものであり、教育研究における第一級の基本文献である。
- 教育学、教育史、教科・教材史などの研究に、また近代史の研究にも必携。
- 図書館・研究室必備の書。
- 今回復刻にあたって詳細な解説、内容一覧、国定教科書との対照表および文部省図書監修官等の編纂趣意論文・講演要旨目録を別巻として収録。

◆編者略歴

中村 紀久二 (なかむら・きくじ)

1932年横浜生まれ。青山学院大学文学部教育学科卒業。国立教育研究所を経て、現在教科書研究センター特別研究員。著作に『教科書の社会史』(岩波書店)、そのほか『文部省掛図総覧』(共編著、東京書籍)、『複刻国定高等小学読本 解説』『複刻国定修身教科書 解説』『文部省著作戦後教科書 解題』(大空社)など。

本書をお薦めしたい方々

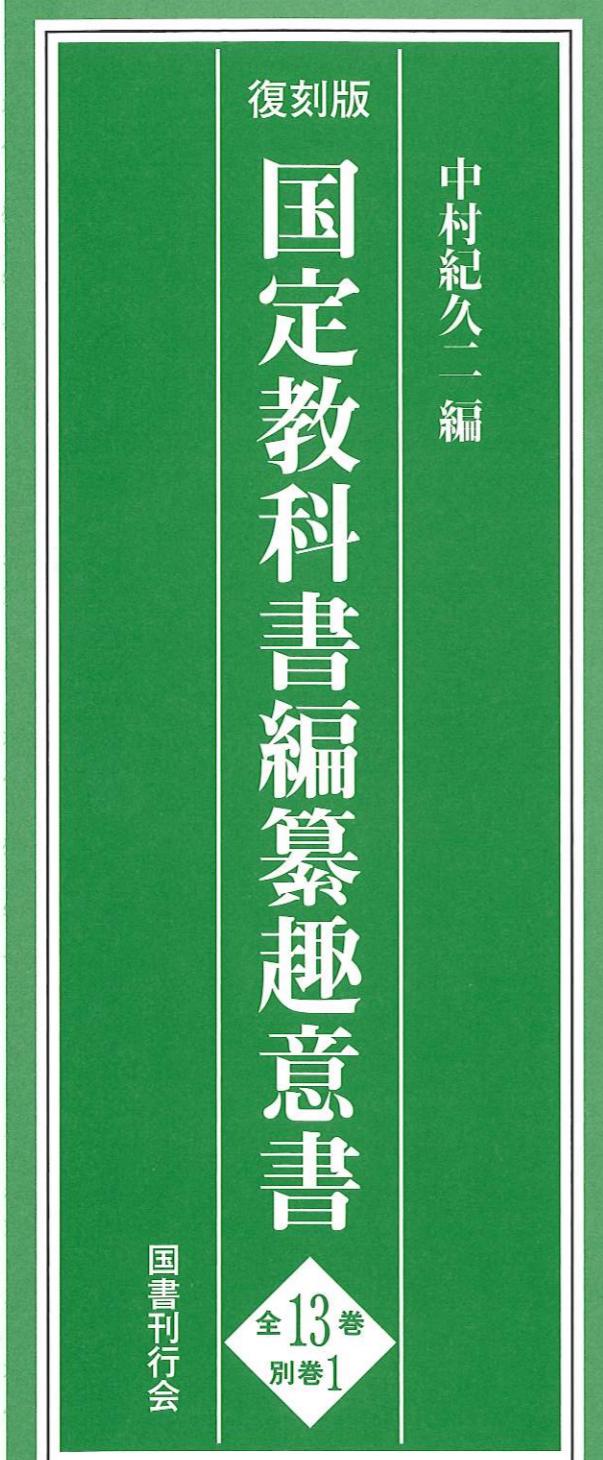
教育学研究者、教育史研究者、教科・教材史研究者、日本近現代史研究者、社会学研究者、社会史研究者、日本文化史・思想史・政治史・行政史の研究に。
大学図書館、公共図書館。

*発行

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp>
e-mail:info@kokusho.co.jp

*お取扱書店



刊行にあたつて

中村紀久二

国定教科書の動態を語る資料

寺崎昌男（東京大学名誉教授）

近代日本教育研究の画期的基礎資料！

近代日本における初等教育の教科書国定制度は、一九四七年（昭和二二）年に「国民学校令」が廃止されるまで、四十三年の長きにわたって存続した。国定期の学校教育においては、教科書に書かれていた事柄は国家の教育政策を具現化した教育内容そのものであり、ほとんどの場合、一教科一種類の教科書を全国の小学校で強制使用させることによつて、それを学ぶ子どもたちに画一的な大きな影響を与えたのである。

編纂趣意書はこのような国定教科書を新たに発刊・改訂する際、文部省が個々の教科書の発刊趣旨を公示した文書である。その作成者は編纂に直接関与した人々であり、国定教科書編纂の意図と内容の基本構造が端的に示されたものとして、この時期の日本政府が国民をどのように導こうとしていたのかを検証するための好史料となるものである。国定教科書の分析・研究のみならず、教育史・社会史・近代史研究全般における基礎的史料といえよう。教科書に関する論議のかまびすしい現在、充実した解説・資料を付して、かつて無い規模で復刻を行うことにより、今後の研究に資するものとなることを確信するものである。

日本の近代教科書、特に国定教科書を調べ抜いている人といえば、本企画の編者・中村紀久二さんをおいてほかはない。その中さんが、発見しうる限りの『国定教科書編纂趣意書』を集大成し、復刻し、しかも詳細な解説を添えられている。朗報である。

書くまでもないが、国定教科書は一九〇三（明治三六）年から発行され、一九〇四年から子どもたちが一部の教科について手にし始め、一九四六年（昭和二二）年度まで発行され、尋常科、初等科、高等科のすべての子どもが学んだ。各期の国定教科書はさまざま改訂や修正を経ながらも、近代日本人の知識と心性を深く規定した。

だが、中に収められている教材や「課」がどのような趣旨でつくられたか、文章だけでなく図版や絵などが、なぜ、どのように改訂されたか、実際に教師が何を強調して教えるよう指示されていたかとなると、資料は限られてくる。文部省発行の『編纂趣意書』は、それを知る基本資料である。わたくしは、若い研究者たちと国定教科書に国際的教材がどのように取り上げられたかを研究したことがある。教科書を睨みつけているだけでは分からぬことが多いから、思い知らされた。各期各教科の「編纂趣意書」は何よりの頼りだった。また、国定といえども誤りがなかつたわけではない。「編纂趣意書」には「誤謬訂正」も少なからず報じられている。今回は、それら関連する訂正通牒も復刻されている。

教科書は存在しているだけで教科書になるのではない。それを活用した指導をへ、子どもたちに「届いて」初めて教科書になる。今回の復刻は、国定教科書がいかにして教科書になつたか、その動態を検討するための不可欠の資料だといえよう。

原本に一切改変を加えず、
すべて忠実に復刻

*各卷収録内容

<解説頁> (原寸 50%)	
『復刻版 国定教科書編纂趣意書』解説	
各期の教科書	
第1章 第1期 1904(明治37)年使用開始	

第1節 国定化への動向
国定教科書制度導入の契機は、1902(明治35)年12月末から翌年春にかけて、小学校教科書の採択に関して発生した崩壊疑惑事件によるが、小学校教科書の国定化は偶發的事件によって成立したものではない。実は1896(明治29)年以降、帝國議会貴族院は小学校修身・読本教科書の「国費編纂」を可決し、また衆議院でも小学校教科書の「国費編纂」の建議を可決していた。帝國議会のほかに1903(明治36)年までの間に、地方長官会議・高等教育会議・関東教育会連合などが、小学校教科書の「文部省指定」「文部省編纂」「国定化」を建議あるいは審議をしている。これら小学校教科書に対する「国費編纂」「国定化」の主張の核心は「德育第一」、つまり教育勧諭の趣旨を貫徹する忠孝愛國や富國強兵の精神を含む教育内容の全国統一化を欲したものであった。

教科書疑惑事件は、拙著『教科書の社会史』(岩波新書、1992年)の記述を要約すると次のような政策動向をともなう事件であった。

1. 明治の検定制度下での小学校の教科書採択は、府県単位の教科用図書審査委員会の報告にもとづいて府県知事が採定するという府県統一採択制であった。いったん採択された教科書は4年間の継続採択が保証されていた

● 内容見本

詳細な解説、内容一覧ほか

資料を別巻に収録

<復刻頁> (原寸 55%)

二、書翰文	
計	四
一〇九	二九
一	二
二八	一五
三	三
二	一五
一	六五
二	五五

- 11 -

<内容一覧頁> (原寸 50%)	
第3巻 「国定教科書編纂趣意書」 国定第3期 (1)	
10 審常小学 国語読本編纂趣意書 大正13.7 94p 尋常小学 国語書き方手本編纂趣意書 尋常小学 国語読本卷一・卷二・卷三・卷四編纂趣意書 大正6.12 1~25p 尋常小学 国語書き方手本 第一年用・第二年用 編纂趣意書 大正6.12 27~28p 尋常小学 国語読み方手本第三年用編纂趣意書 大正9.3 45p 尋常小学 国語読み方手本第四年用編纂趣意書 大正10.3 62p 尋常小学 国語読み方手本第五年用編纂趣意書 大正10.11 63~76p 尋常小学 国語書き方手本第五年用編纂趣意書 [大正11.11] 77p 尋常小学 国語読み方手本第六年用編纂趣意書 大正12.7 79~93p 尋常小学 国語書き方手本第六年用編纂趣意書 大正12.7 94p	

3.8 163, 76, 2p	
大正6.12	1~28p
学年用	
大正6.12	29~30p
	93

第二章 文 章	
第一回 語文ノ增加	四
二回 文 読 本	一五六
三回 文 読 本	一四五
四回 文 読 本	一五五
五回 文 読 本	一五五
六回 文 読 本	一五五
七回 文 読 本	一五五
八回 文 読 本	一五五

- 10 -

対応する国定教科書の教科	
修身	国語読み本、国語書き方・習字、
算術	算術・算数、日本歴史・国史、地理、理科、
図画	図画・工作、唱歌・音楽、家事・裁縫、農業、
商業	商業・簿記、水産、工業、英語